

「東の大磯」と呼ばれた、あの頃

かつて、一宮には多くの名士の別荘が立ち並び、「東の大磯」と呼ばれ、隆盛を誇っていました。多い時には100軒以上の別荘があったといいますが、戦後には衰退してしまします。しかし、名士たちはこの町の人々と交流を持っており、それらは確かな「足跡」として、この町に残っています。



一宮海岸の別荘の風景

| 氏名 | 略歴 |
|-------------|-------------------------------|
| 1 佃一誠 | 大蔵省印刷局長、日本勲業銀行理事 |
| 2 馬淵鋭太郎 | 山形県・山口県・三重県・広島県・京都府知事、京都市長 |
| 3 佐々熊太郎 | 東亞煙草社長、大日本武徳会発起人 |
| 4 三好成行 | 男爵、陸軍中将、威海衛占領軍司令官、大日本武徳会会長 |
| 5 川村竹治 | 和歌山県・香川県・青森県知事、満鉄社長、台湾総督、司法大臣 |
| 6 吉松茂太郎 | 海軍大将、[常盤] 艦長、連合艦隊司令長官 |
| 7 仁礼景範 | 子爵、海軍中将、海軍大臣、海軍軍令部総長 |
| 8 加藤友三郎 | 子爵、元帥、日本海軍連合艦隊参謀長、海軍大臣、総理大臣 |
| 9 斎藤実 | 子爵、海軍大将、海軍大臣、朝鮮総督、総理大臣、内大臣 |
| 10 今津孝則 | 陸軍少将、野戦砲兵第一聯隊長 |
| 11 河原要 | 海軍中将、日清戦争「吉野」艦長 |
| 12 寺垣猪三 | 海軍中将、日本海海戦「敷島」艦長 |
| 13 木村社介 | 軍医中将、海軍軍医総監 |
| 14 中山長明 | 海軍少将、舞鶴港務部長、横須賀港務部長 |
| 15 岩崎達人 | 海軍少将、[比叡] 艦長 |
| 16 山田陽朔 | 実業家、作家森茉莉の夫の父 |
| 17 税所篤文 | 陸軍中将、旅順要塞司令官 |
| 18 隅元正次 | 陸軍少将、東京湾要塞司令官 |
| 19 駒沢伝吉 | 実業家、貸金・貸地業者 |
| 20 大迫尚道 | 陸軍大将、野砲兵監、軍事参事官 |
| 21 牟田敬九郎 | 陸軍中将、下関要塞司令官 |
| 22 三井八郎治郎 | 男爵、三井南家8代、三井物産社長、別荘寄贈（一宮学園） |
| 23 加納久宜 | 子爵、上総一宮藩主、鹿儿岛県知事、貴族院議員、一宮町長 |
| 24 前田利定 | 子爵、上野七日市藩主、逓信大臣、農商務大臣 |
| 25 村田喜四郎 | 実業家、質商、東京瓦斯取締役、富国銀行取締役 |
| 26 難波一 | 医博 |
| 27 依国一 | 工博、冶金学者、日本刀研究者、東大教授、文化勲章 |
| 28 山本景行 | 海軍軍医総監、呉病院長 |
| 29 上原勇作 | 子爵、元帥、教育総監、参謀総長、陸軍大臣 |
| 30 佐竹義春 | 侯爵、出羽久保田（秋田）藩主 |
| 31 河瀬眞 | 子爵、海軍少将、貴族院議員 |
| 32 大河内正敏 | 子爵、工博、東大教授、理化学研究所長、貴族院議員 |
| 33 清野長太郎 | 秋田県・兵庫県・神奈川県知事、復興局長官 |
| 34 平沼騏一郎 | 男爵、法博、大審院長、検事総長、枢密院議長、総理大臣 |
| 35 粟津清亮 | 実業家、法博、保険学者、日本傷害火災海上社長 |
| 36 伊達邦宗 | 伯爵、陸奥仙台藩主 |
| 37 北沢楽天 | 漫画家、日本画家。日本最初の職業漫画家 |
| 38 高石真五郎 | ジャーナリスト、毎日新聞編集長、IOC委員 |
| 39 福岡豊和 | 大審院判事、富岡敬明男爵次男 |
| 40 堀内利器 | 理博、上総一宮藩士、高砂化学工業専務、芥川龍之介友人 |
| 41 川島忠之助 | 実業家、横浜正金銀行役員、翻訳家 |
| 42 トーマス・ペイテ | イギリス人、法博、日本政府法律顧問 |
| 43 加納久朗 | 久宜次男、横浜正金銀行取締役、日本住宅公団総裁、千葉県知事 |
| 44 伊吹山次郎 | 文学者、上海で活躍した実業家伊吹山徳司の次男 |
| 45 中村進午 | 国際法学者、法博、学習院教授、東京商大教授 |
| 46 金田東一 | 文学者、四高教授、学習院教授、『グリム童話集』翻訳者 |
| 47 志田紳太郎 | 法学者、法博、明大総長、一宮実業学校（一宮商業）創設者 |
| 48 大関増輝 | 子爵、下野黒羽藩主 |
| 49 白鳥省吾 | 詩人、星影のワルツ・一宮音頭・東浪見小校歌作詞者 |
| 50 関和知 | 網田村出身、東京毎日新聞編集長、衆議院議員、陸軍政務次官 |



名士の別荘マップ



老女子別荘地の風景



12 加納子爵邸（追手）



一宮川河口付近の風景（戦前）



34 平沼騏一郎の書（玉前神社蔵）



37 北沢楽天の絵画（乃木希典像）



40 堀内利器邸（追手）

一宮町の歴史（1890年～1970年）

1890年（明治23年）一宮本郷村、新築村と合併し、一宮町となる

1891年（明治24年）一宮区裁判所新設開庁

1892年（明治25年）東浪見小学校新校舎落成

1893年（明治26年）関宗助、梨苗を植え増産を図る。東上総梨の始まり

1894年（明治27年）一宮町消防組設立/日清戦争勃発（28年）

1895年（明治28年）一宮商業銀行設立

1896年（明治29年）一宮実業倶楽部誕生

1897年（明治30年）大綱（一宮間鉄道開通、一宮駅営業開始）

1898年（明治31年）一宮支店開業（現在の千葉銀行一宮支店の前身）

1899年（明治32年）電話交換業務開始/杉山式馬耕始まる

1900年（明治33年）一宮婦人会発会（会長加納子爵夫人、一宮町一宮町）

1901年（明治34年）この頃一宮海水浴場できる

1902年（明治35年）加納久宜、町長に就任/大正5年生活改善論加納久宜

1903年（大正2年）一宮女子学校設立（昭和8年）

1904年（大正3年）一宮に初めて電灯が灯る/青年会商業部を海浜に開設

1905年（大正4年）養蚕組合結成（一宮）

1906年（大正5年）隣組病舎新築/養蚕組合結成（東浪見）

1907年（明治30年）一宮青年会発会/養蚕のため一宮川溢水、宮原地区に被害

1908年（明治31年）一宮信用組合創立（農協の前身）

1909年（明治32年）一宮町青年会発会/全国に先がけ耕地整理始まる。一宮駅、海岸の間1.54回反歩（大正3年）

1910年（明治33年）電話交換業務開始/杉山式馬耕始まる

1911年（明治34年）一宮婦人会発会（会長加納子爵夫人、一宮町一宮町）

1912年（明治35年）一宮商業銀行設立

1913年（明治36年）一宮町農会、団体として認められる

1914年（明治37年）一宮町に初めて電灯が灯る/青年会商業部を海浜に開設

1915年（大正4年）養蚕組合結成（一宮）

1916年（大正5年）隣組病舎新築/養蚕組合結成（東浪見）

1917年（明治30年）一宮青年会発会/養蚕のため一宮川溢水、宮原地区に被害

1918年（大正7年）米備高騰

1919年（大正8年）加納久宜、逝去/東浪見一宮漁業組合免許を返却

1920年（大正10年）観音寺下に消防用大貯水池をつくる

1921年（大正11年）一宮警察署に42尺の鉄骨警備機火の見櫓を設置

1922年（大正12年）コソドウ鯨の大群東浪見海岸へ/関東大震災（一宮では大きな被害はない）

1923年（大正13年）一宮実業学校創立

1924年（大正14年）一宮実業学校創立

1925年（大正15年）一宮学園開設

1926年（昭和元年）一宮川堤防決壊、宮原地区被害甚だす

1927年（昭和元年）徳川大尉、所沢一宮間長距離飛行に成功/冷害による大凶作、海州事変始まる

1928年（昭和3年）大穴の涌池改修/ヒューム管理設（東部耕地整理組合）/一宮園芸組合結成

1929年（昭和4年）軍荼利山涌池工事着工（20年）

1930年（昭和5年）一宮、東浪見旧婦人会結成（17年解散）

1931年（昭和6年）一宮小学校新築

1932年（昭和7年）一宮小学校新築

1933年（昭和8年）日支事変始まる

1934年（昭和9年）国民健康保険法成立実施

1935年（昭和10年）親の谷涌池新設工事着工（19年）（西部耕地整理組合）

1936年（昭和11年）一宮川潮止堰完成/太平洋戦争突入（20年）

1937年（昭和12年）青少年団体、婦人会が大政翼賛会の傘下に

1938年（昭和13年）一宮町農会設立/東浪見第2耕地整理組合設立/雨害計画/一宮町森林組合設立

1939年（昭和14年）西部一丘陵に横穴陣地構築、風船爆弾、一宮基地（海岸）から上げる

1940年（昭和15年）終戦、復興始まる

1941年（昭和16年）自作農割設特別措置法公布/農地委員会の委員選出/一宮町婦人会を再結成し、あま会、東浪見地区婦人会（誕生）

1942年（昭和17年）公道町長の選挙で田中、周当選/一宮中学校創立/農業共済組合発足/千葉地方検察庁一宮支部発足

1943年（昭和18年）農業協同組合設立（一宮、東浪見）/衣料品協同組合設立

1944年（昭和19年）一宮町乳牛組合結成

1945年（昭和20年）一宮町乳牛組合結成

1946年（昭和21年）千葉県林業技術指導所運営開始

1947年（昭和22年）一宮町乳牛組合結成

1948年（昭和23年）一宮町乳牛組合結成

1949年（昭和24年）一宮町乳牛組合結成

1950年（昭和25年）一宮町乳牛組合結成

1951年（昭和26年）一宮町乳牛組合結成

1952年（昭和27年）一宮町乳牛組合結成

1953年（昭和28年）一宮町乳牛組合結成

1954年（昭和29年）一宮町乳牛組合結成

1955年（昭和30年）一宮町乳牛組合結成

1956年（昭和31年）一宮町乳牛組合結成

1957年（昭和32年）一宮町乳牛組合結成

1958年（昭和33年）一宮町乳牛組合結成

1959年（昭和34年）一宮町乳牛組合結成

1960年（昭和35年）一宮町乳牛組合結成

1961年（昭和36年）一宮町乳牛組合結成

1962年（昭和37年）一宮町乳牛組合結成

1963年（昭和38年）一宮町乳牛組合結成

1964年（昭和39年）一宮町乳牛組合結成

1965年（昭和40年）一宮町乳牛組合結成

1966年（昭和41年）一宮町乳牛組合結成

1967年（昭和42年）一宮町乳牛組合結成

1968年（昭和43年）一宮町乳牛組合結成

1969年（昭和44年）一宮町乳牛組合結成

1970年（昭和45年）一宮町乳牛組合結成